

「頑張るのは、もう無理！」。吐き捨てるように言うIさん。一体何があったのだろうか。

今年38歳になるIさんが、今の会社に転職したのは12年前。この間、結婚と出産を経験した。職場では育児休業取得第1号として、困難を乗り越え後輩への道筋をつけてきた。育児休業復帰後もなお、いろいろな事態に遭遇しながらも何とか仕事を続けてきた。

「今は子どもの迎えのために、終業時間ピッタリに飛んで帰りますが、同僚から白い目で見られないように頑張っています」。就業時間内は誰よりも多く、かつ正確に仕事をこなし、時には早朝出勤もしているという。とつてもパワフルで優秀なIさん。なかなか、まねのできないことだと感じました。

「事件」は昨日の夕方におきた。Iさんが慌ただしく帰宅したその後に、取引先でトラブル発生。同僚の迅速な対応

仕事と家庭 両立の中で

男性社員と同等評価を

でその場をしのいだ。Iさんがいれば、簡単に収まる問題だったのだが。「だから女性には任せられないんだ」。上司がぼそつと言った。この言葉が、Iさんの胸に突き刺さった。「職

つて」。そのときの悔しさがよみがえってくるのか、ぐっと涙をこらえるIさん。

その後は「なぜ、だからと遅くまで残業をしている男性社員が出世するんでしょう？」「女性と男性では、社内での教育内容が違うんです。それっておかしいですよね？」「男性は、女性が両立で苦しんでいるなんて思ってもいけないでしょうね」と、目ごろの

とIさんの思いを聞いた。「こんなに頑張っているのだから、もっと評価されたいですよ」と言つと、「そう、男性と同等に評価されたいです」ときつぱり答えた。「でも、会社から期待されていないと感じると、だったら仕事はそこそこしておこう」と弱気になります。家に帰れば、夕飯の支度、子ども

フスタイルがある。もちろん正解なんてない。でもIさんのように、仕事にやりがいをもって頑張っても「評価されない」とか「思うように仕事ができない」と、もがいている女性は少なくないように思う。女性は頑張っても報われないのだろうか、いや、そんなはずはないと信じた。ちよつと気持ちが軽くなった様子のIさん。仕

場では絶対泣かないと決めていたのに、このときはかりは悔しくてトイレで泣きました。上司は「うんうん、分かる分かる。悔しいですね」

すくめた。いつもフル回転のIさん。無理をして体を壊さなければいいが…。みんな思い思いのライ

事を続けていくのって、山あり谷ありですね。今回のトラブルは、私も少しは責任があったかも。一度、改善策を考えて次につなげます。女性の学習能力は高いですよ！」とにっこり。そこには、後ろ向きなIさんはないなかつた。



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)